

HPVワクチンって？

- 20年近く110か国以上で広く接種され、すでに**海外では実績のある**ワクチンです。
- 世界保健機関は「**安全で効果的**」としています。
- 16歳までの接種がより効果を発揮します。



男子も接種できます

- 対象（推奨）は小学校6年生～高校1年生の方です。
- **女子は無料**ですが、**男子は原則自費**になります（6万円程度かかりますが、自治体によっては無料）。

男子はなぜ必要？

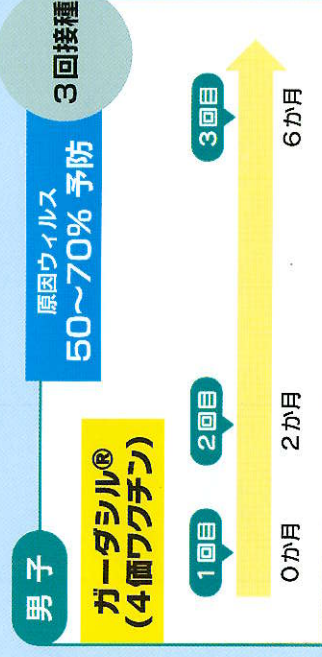
- HPVは“**のど**”や**肛門**にもがんを発生させます。
- 男子では**肛門がん**、**尖圭コンジローマ（性感染症）**を予防できます。
- 外国では“**のど**”の**がんも予防**できるとされます。社会全体のHPV感染の広がりを予防できます。世界では59か国で男子接種が行われています。

ワクチンは2つ

- ① **ガーダシル®（4価）**
頻度の高いHPV16型と18型の感染を防ぎ頸がんの原因ウイルスの**50～70%**を予防できます。**主に男子**に用います。
- ② **シルガード9®（9価）**
9種類のHPVを防ぎ頸がんの原因の**80～90%**を予防します。**主に女子**に用います。

接種スケジュール

国内で主に使用されるHPVワクチンはガーダシル®（4価）、シルガード9®（9価）の2種類です。
男子：ガーダシル®が用いられ、3回接種します。
女子：シルガード9®（9価）が主に用いられ、1回目を**15歳になるまで**に接種すれば、2回の接種で完了です。



- *1 1回目と2回目の接種は、少なくとも5か月以上あけます。5か月未満である場合、3回目の接種が必要です。
- *2 *3 2回目と3回目の接種がそれぞれ1回目の2か月後と6か月後にできない場合、2回目は1回目から1か月以上（※2）、3回目は2回目から3か月以上（※3）あけます。



HPVワクチンが普及した海外で認める優れた効果

接種が普及した国では

- 若年女性の頸がん**約90%減少**
- 性感染症（尖圭コンジローマ）減少
- 特有な副反応は認めていません
- 効果の持続は**14年以上**



気になる副反応は？

接種後に接種部位の痛みや腫れ、赤みなどが起こることがあります。まれに重い症状（重いアレルギー一症状、神経系の症状）が起こることがあります。日本では一時、接種後の手足の動かしにくさ、不随意運動（体の一部が勝手に動く）など「多様な症状」が問題になりました。しかし、その後の検討でHPVワクチンとの因果関係はないとされています。

ワクチンを2-3回接種しますが、1回目、2回目に気になる症状が現れたら以降の接種を中止できます。

*** 接種後に症状があった場合には、まずは接種を受けた地域の医療機関を受診をお願い致します。その際、必要に応じて協力医療機関（宮崎大学）の受診についてご相談下さい。**